

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

ラグビーマガジン

PACIFIC RIM CHAMPIONSHIP REVIEW

監督インタビュー
平尾誠二
岩渕健輔×大畑大介
ジャパン新世代。

石嶋照幸×山口吉博「早大」ほか
バシヨップ×ジョセフ「サニックス」

コンビ

天野義久「サントリー」×中竹竜二「元早大」対談
広瀬佳司「トヨタ自動車」NZリポート「ほか」

海外でやるラグビー

特集

9 SEP.1997
No.295
定価 780円

勝利の陰に、
持久力。



TSUNEO IKEDA SPORTS SCHOLARSHIP

ベースボール・マガジン社



BEACH FOOTBALL '97

ビーチフットボール'97第2回白浜大会



準備運動に輝いた KING OF HIROTO。O. 架い砂を自由に取った



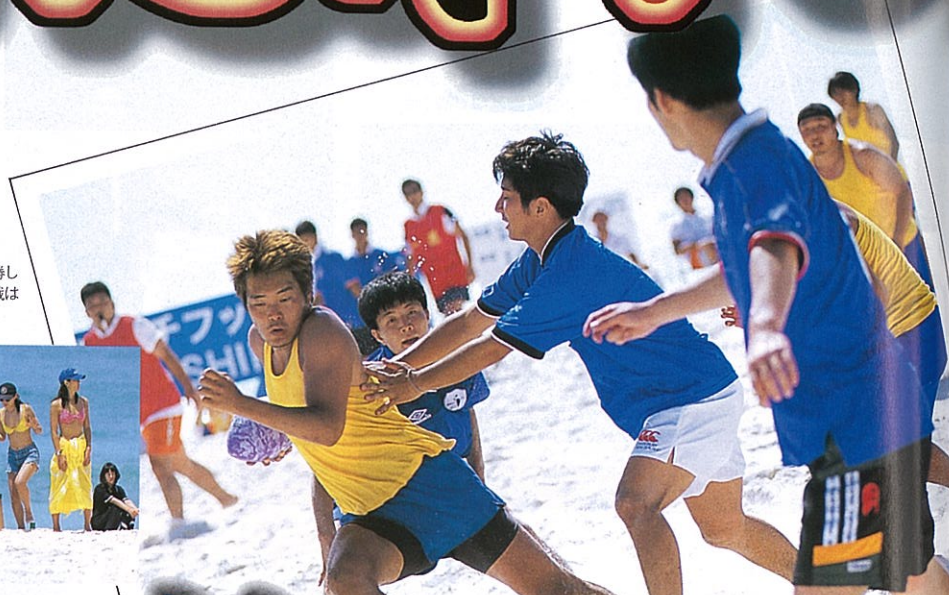
参加チームは54。昨年の倍以上にふくれあがった

も分からない大会のため、大阪など他府県から駆けつけた、たくさんの勇気をたえよう。山越え谷越え集まってくれたライバルたち。最後まで負けなかったチームはたった一つだけ。どのメンバーにも、この日の夕陽が特別きれいに見えたのは、風と雨で洗われた空のせい、だけではなさそう。 (関西、関東、中部九州の各大会のようは、8月25日発売の10月号でお知らせします)

近場を前進、優勝した風のロンドの作戦は徹底していた



これぞ台風一過、夏色のコントラストがビーチを彩った

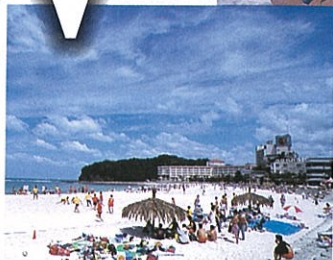


風のロンド

ついにシーズン到来！ 梅雨も風もかいくぐり、今年もビーチフットがやってきた。関西、関東、中部、九州と違い、全国大会につながらない唯一のフランチャイズ大会だからこそ、ここには独特のよさがあります。和歌山県、南紀・白浜は、緑濃く、青深きパレットのような楽園。6月29日、第2回大会のVは「風のロンド」が津波のごとく奪取し、創造性あふれる「キング・オブ・ヒロト」は準優勝に輝きました。鮮やかなバックに負けない、熱戦のようをお届けしましょう。

怒涛のV

オーストラリアから運ばれてきた砂で、ビーチは鮮やかな白



カップ第1位 風のロンド

決勝トーナメント

風のロンド

風のロンド	15
白浜ベイスターズ	0
ファイヤーファイターズ	3
KING OF HIROTO	8

3位決定戦

白浜ベイスターズ	10
ファイヤーファイターズ	10

SPRINKLERS

プレートの

KEN YON	11
INNOCENT BOYS	7
レッツゴーチンパンジー	0
能勢SPERMA SPRINKLERS	22

3位決定戦

INNOCENT BOYS	16
レッツゴーチンパンジー	0



プレートの Aコート

ファイヤーファイターズ	0
Marverous Marverous	0
井原 RFC	4
和歌山クラブサトル	4
Kobe Red Gands	4

カップ

ピンチシ生野クラブ	3
マンビーズ	4
NANIWA15	0
KEN YON	0
Peach Mountain	3
大阪ファンキラーズ	0
トイレで3分	17
はっさく	0
泉州クラブB	0
風のロンド	21
レッツゴーチンパンジー	0
蟹江けいぞう	0

プレートの Bコート

FRISKY	6
バーバリアンズ	0
ベルサイド	3
ボンバーズ	6
グラスホッパーズ	14
ハニービー	6

カップ

大阪ファンキラーズB	11
能勢SPERMA SPRINKLERS	0
白浜ベイスターズ	6
バーリトゥード	0
チョコリバスベシャル	3
ロケットペンギンズ	6
K G Beach Stars	11
ひげもこなるどころ	0
渚ちゃんのベッ	0
大坂が本がバズク	4
ルーズソックス	0
和歌山クラブデブ	9

プレートの Cコート

田辺高校	15
ブーヤンズ	0
ウインドシアーズ	3
大阪ガスボンバーズ	3
ハルケインズTRC	15
翔山6時37分	0
福中ラグビー部	6
Sugar	3
サンクラブ	3
ボンバーズNo.2	3
梅干クラブ	18
チームマノキオ	0
KING OF HIROTO	16
ユニコーン	0
F C ジャバ	0
Marverous	0
泉州クラブA	3
INNOCENT BOYS	3

カップ

KEN YON	8
INNOCENT BOYS	4
KING OF HIROTO	8

※カップの決勝トーナメントに進んだのは、各コートの優勝チーム(A-C計3チーム)と、各コートの2位チームのうち得失点差で最も優位なチーム、併せて4つ。プレートも同様。
※同点の場合はエキストラ・ポイントで2セット行い、それでも決まらなければジャンケンで勝者を決めた。

台風8号上陸。前夜までは暴風雨のなかでスッポリと収まっていた南紀白浜。日本列島を駆け抜けた渦巻きが、よりによってこのタイミングでやってくるなんて。開催さえ危ぶまれた白浜大会だったが、当日のような風と雨は無事に通過。狂った朝7時には、海を映すように晴れやかな空が広がっていた。

6月29日、和歌山県の白良浜海水浴場で、真夏の陽射しの中、54チームが激突した。足が沈み深い砂、まっ白なパウダービーチを、フットボールたちが自在に駆け回った。参加したのは、ひと月後に開催される関西大会にエントリーしているメンバー。ビーチフットボールのルールを生かしたうまい戦い方や、練習のあととがうかがえるプレートの連発には、大会スタッフも驚かされた。昨年の24から倍以上にふくらんだチーム数とともに、プレートのレベルもグンとアップしている。

地元ボランティアの皆さんのがんばりも見逃せない。掲示板管理にコメント設置、進行、受付、救護からゴミ拾いまで、プレイヤーたちに負けないチームワークで大会を運営して見せた。地元からは、大会スタッフも加わった「白浜ベイスターズ」も参戦。昨年とは生まれ変わったようなスキルでカップ決勝トーナメントに



カップ第2位 KING OF HIROTO



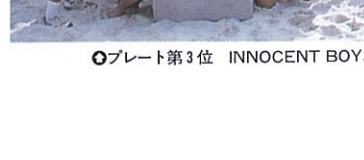
カップ第3位 ファイヤーファイターズ



プレート第1位 能勢SPERMA SPRINKLERS



プレート第2位 KEN YON



プレート第3位 INNOCENT BOYS

入り、積み重ねた練習の成果を存分に発揮した。さて、一気に厳しくなったトーナメントの頂点でぶつかったのは、関西大会でおなじみの「風のロンド」と、奔放なバス、ラン、砂の上とは思えない柔軟な動き、走りを見せた注目チーム「キング・オブ・ヒロト」。開始から得意のバタインで圧倒した「風のロンド」が、相手の戦意をもかたはらって優勝した。Vを決めた戦法はひとつ。1回戦から徹底してきた「4タテ・アンド・パス」のスタイルだった。つまり、5回の攻撃のうち4回までは、相手に息つく間も与えずポイントの前パスを狙うバタイン。ディフェンスはタッチの度に2以下ならなければならないが、

ついオフサイドを繰り返してしまいがちだ。途中から気持ちの切れしまった「キング・オブ・ヒロト」は、せっかくな創造的なアタックを發揮

できずに敗れたが、華麗さを追いつめるプレーは全国でも十分通用するものだった。「風のロンド」の、すごい作戦とフィットネスがカップを制した今大会。一方で、彼らのプレーがまた、このスポーツのバリエーションを奪ってしまったことも心配された。結局緊急審判委員会の協議により、スナックを受け取るプレイヤーは、スナックの後方直線上に1人以上上下がっていなければならぬという、新ルールを生んで、2回目の白浜は暮れつつあった。スポーツは、ルールとプレイヤーが追いついて進化していくもの。ビーチフットボールはまだまだ可能性を秘めているのだ。

台風直撃の予報にも、出場キャンセルはほぼ0だった。やるかどうか